

経済

# 新幹線開業で変わる 3 都市をレポート

## 九州新幹線

# 3都の「顔」

▲ 熊本・福岡・鹿児島

### 広域交流時代の幕開け

3月12日、待望の九州新幹線鹿児島ルートが全線開業した。熊本一博多最速33分。博多一鹿児島間が同じく1時間19分で結ばれ、日帰り圏は関西地区まで広がる。観光やビジネスでの交流人口拡大が予想される沿線都市は、九州新幹線を発展の跳躍台にと都市戦略を練り上げてきた。念願の高速鉄道開業を契機に、その姿を変貌させつつある沿線3都の「顔」をレポートする。



▲熊本駅東側に建設中の東A地区再開発ビル。「熊本市図書・情報センター」(仮称)や商業施設が入る再開発ビル「くまもと森都心」は完成すれば、県内最高層の35階建て、地上123mとなる



▶熊本城校の馬場リテール棟(丸本文紀社長)が運営する飲食物販施設「桜の小路」(こじ)。飲食店5、飲食物販兼営店2、物販店16の計23店舗が出店。初年度の売り上げ目標は15億円

## 博多駅一帯にもう一つの街



九州最大規模の駅ビル、JR博多シティ開業

10億円規模の改装を行い、昨年11月1日にリニューアルオープンした「博多バスターミナル」(左)と九州初出店の東急ハンズが入居する駅ビル「JR博多シティ」(右)

## 福岡

FUKUOKA

新幹線開業で飛躍のチャンスをつかむため、福岡市はJR博多シティが開業した博多駅と天神の間で回遊性を高めるまちづくりを進めている。熊本・鹿児島と連携し、関西圏からソウルまで幅広く、一体になった九州の魅力のPRしている。



▶博多駅地下に建設中の駐車場入り口を設置する工事が進む駅前通り



▲九州初進出の阪急百貨店がオープンしたJR博多シティ



▲博多駅と天神のほぼ中間にあるキャナルシティ博多増床棟の建設現場。背後は建設中のホテル、ドミーイン

3月3日、JR九州博多駅で九州最大級の駅ビル、JR博多シティが開業した。地下3階、地上10階建てで床面積は約20万㎡。建物の一部が在来線ホーム上に約60mせり出し、229店が入居し、約6000人が働く規模は一つの小さな街とも言える。

核テナントとして九州初進出の阪急百貨店が出店し、専門店街の「Ami Plaza」博多内には東急ハンズも九州初出店した。駅周辺では約13万人が勤務し、博多駅の日あたりの乗降客数は30万人以上。一方、天神では岩田屋と福岡三越がブランドを再構築し、キャナルシティは改装・増床工事を進めている。新幹線の開業効果をJR博多シティだけに留めず、市内各地に波及させるため、街歩き環境改善やキャナルシティへのシャトルバス運行など、回遊性を高める取り組みも進んでいる。